

NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 2 LESSON 5 授業例②

M.K. 先生

指導計画表

(全 11 時間)

時間	学習内容・主な活動
1	■英語の歌導入・練習 ■ビンゴシート ・新単語の導入・意味発音の確認 ■Q&A ・読みの練習・ペア活動 ■とびら ・花火について
2	■Get Part 1 (1) ・文法の導入 ・不定詞（名詞用法）の練習
3	■Get Part 1 (2) ・文法の復習 ・本文の読み練習
4	■Get Part 2 (1) ・文法の導入 ・不定詞（副詞用法・形容詞用法）の練習
5	■Get Part 2 (2) ・文法の復習 ・本文の読み練習
6	■USE Read (1) ・全文リスニング ・リスニング P58 ・問題演習ワークシート
7	■USE Read (2) ・全文リスニング ・リスニング P59 ・問題演習ワークシート
8	■USE Read (3) ・全文リスニング ・問題演習ワークシート（まとめ）

時間	学習内容・主な活動
9	■USE Mini-project ・スピーチ「私の夢」
10	■We're Talking 5 ・読み練習 ・Exercise ・Skit 練習
11	■単元テスト ・LESSON 5, We're Talking 5

実践例

1. あとから効いてくる帯活動

毎時間必ず行う帯活動を紹介します。

①英語の歌

毎月1曲ずつ英語の歌を授業の始めに歌っています。生徒からのリクエストを受け、多いものから順番に採用するようにしています。英語の歌は発音やリズムの練習になり、雰囲気作りに最適です。今年度からタブレット PC と大画面 TV を導入し、ネットでダウンロードした歌詞入りの YouTube を使っています。大画面に表示される歌詞を指し棒で指しながら歌うので、生徒にとって今どこを歌っているか容易にわかり、歌いやすいと好評です。以前は自作の歌詞カードを拡大印刷して黒板に貼り、指し棒で指していましたが、文字が小さく後ろの生徒には見にくいようでした。YouTube は歌のフレーズごとに画面が変わり、大きな文字で生徒にとって読みやすいです。昨年度まで CD プレーヤーを使っていましたが、今年は1回も使っていません。

今年導入した歌を紹介します。

- 4月 'Imagine' John Lennon
- 5月 'Let It Go' Idina Mentzel
- 6月 'Story of My Life' One Direction
- 7月 'Happy' Pharrell Williams

②ビンゴゲーム（資料1）

基本的に各レッスンの最初から We're Talking までの新出単語を選び、ビンゴシートを作ります。A4 の用紙に2面、両面合わせて4面。これをレッスンごとに2枚ずつ。合計8回のビンゴを必ず行います。これをフラッシュカードの代わりにしているので、フラッシュカードは長年使っていません。ビンゴになった初めの5人にシールの賞品をあげています。かわいいシールが女子生徒に好評です。

活動の流れを簡単に説明します。まず”B”の行から”O”の行まで25語以上を下の欄に指定しておきます。生徒はそれを各行ごとにあらかじめランダムに書き写し、日本語も調べておきます。教師はそれをBの行から一語ずつ読み上げ、生徒がそれをチェ

ックします。縦、横、斜めいずれかで5個合えばビンゴです。

第1回

ビンゴは前時にあらかじめ宿題にしておきます。最初に単語の意味を確かめ、全員で発音の練習をします。この時、全部の意味や発音を覚える必要はありません。次に”B”の行から一語ずつゆっくりと全員で発音しながら、ビンゴゲームを進めていきます。ビンゴは4人のグループを基本として行います。

教師 “Round 1…B, farm” 生徒 “farm”

教師 “farm” 生徒 “farm”

教師 “I, pilot” 生徒 “pilot”

教師 “pilot” 生徒 “pilot” …

と、こんな感じです。

Round 1 で”O”まで来たら、“Check in your Groups.” と言い、グループ内で確認の時間を取り、しばらくしてから、“Round 2, …” と再開します。

第2回

全部の語を1回ずつ発音練習したあと、ゲームを始めます。やはりゆっくりと一語ずつ全員で読みながら進めます。これを第4回まで同じようにくり返します。

第5回～第8回

ビンゴシートは2枚目になりました。この回から第8回までは、スピードアップし、教師が2回ずつ素早く読みながら、ゲームを進めます。生徒はくり返さずによく聞いてチェックに集中します。

この活動を通して、生徒はライティング、リーディング、リスニング、スキミングなどの能力を磨くこととなります。両面合わせて2枚のゲームを終える頃には、上記の活動をたくさんすることになります。そして、生徒は楽しみながら単語を覚えるでしょう。

しかし、これだけでは十分でない生徒も中にはいます。そういうときは生徒の理解度に合わせて、ときどき単語テストをやるのもいいでしょう。

③Q&A (資料 2)

レッスンごとの本文内容をまとめた Q&A のワークシートを作り、ペア練習をしています。LESSON 5 では p.54 と p.64 の文をそのまま、p.56 は問答形式に直して作成しました。形態はビンゴに引き続き 4 人の班です。毎回始めに教師に合わせて全部読みます。次に毎回ペアを代え、ペア練習をします。First Partner は向かい合った生徒同士で、Second Partner は斜め前の生徒と、Third Partner はとなりの生徒と、という感じです。ペア練習は基本的に 3 分間の時間を取り、iPad 付属のタイマーで計ります。当然まだ意味も発音も知らない文がほとんどですので、全部読める必要はない、パートナー同士で協力しながら進める、などのルールを決め、気楽にやってもらいます。授業が進む内にビンゴで扱った単語も含め、徐々に内容や読み方が分かるようになっていけばいい、というスタンスです。

Q&A には同時に日本語訳も載せています。ペア活動で、片方が日本語を言い、それをもう一方が英語に直すなどの練習方法もできます。また、他の学習で内容を確認したり、家庭学習で復習に使ったりすることもできます。

2. ICT の導入

本年度より、次のような教育機器を導入しています。大画面 TV・タブレット PC・スキャナー・パワーポイント…。これらを英語の歌、文法の導入、読みの練習、リスニング練習などに利用しています。

①文法の導入 (資料 3)

まず、PC のパワーポイントで文法の導入資料を作成し、iPad にコンバートします。それを大画面 TV に HDMI ケーブルでつなぎ、画像を見せながら説明しています。生徒はアニメーションを使っているので、理解しやすいようです。また同じ説明を何度も使えるので、教師にとって効率的です。これにより本年度は板書量が極端に減り、効率化が図られました。LESSON 5 の不定詞を説明するとき、pp.62-63 の「文法の要点」の例文とイラストを利用しました。生徒が復習をするとき、このページを見て、なじみのある文とイラストで学習しやすいのでは、という配慮です。反面、ノートにまとめない授

業を不安に思う生徒中中にはいます。この場合は、パワーポイントの画像を印刷して配布し、ノートにまとめるように指示したり、家庭学習に利用するように勧めたりするのもいいでしょう。

最近のノート PC には、HDMI 端子が付いていますので、PC を教室に持ち込んでも同じことです。機器が揃っているようでしたら試してみてください。私の同僚はノート PC を使って授業を同じように進めています。さらに Wi-Fi が使える教室環境でしたら、どこでもタブレットや PC を持ち歩けるので、さらに活動的な授業ができるようになるでしょう。

次に、問題集のワークシートを配布し、簡単な問題演習をします。4 人のグループで教え合いながら学習すると、自然に理解が深まります。そして終わったグループへ教師が出向き、1 人のワークシートをチェックします。それをグループの友人に教え、全員のチェックを終えるようにしています。

4 人のグループ全員で話し合い、教え合いながら問題演習をすると、コミュニケーションが増え理解が深まります。そして、なにより信頼関係が生まれ、生徒同士の関係が良好になります。

②読みの指導 (資料 4)

各ページの読みの指導に移ります。ここからは 4 人の班を崩し、ペア活動になります。まず、画面に 1 ページの文を映し、新文法が含まれる箇所の下線を引かせ、意味を確認します。その後読みの練習に入りますが、帯活動の Q&A ですすでに扱っているので導入が容易です。この時、ペアの一人が読み、もう一人がチェックをします。また、文の一部を画像で隠したり、() を入れたり、文全体を動かしたりすると、生徒は楽しんで読みの練習ができます。

③スキャナー

NEW CROWN の 24 年度版が出たとき、全学年全ページをスキャナーに取り込み PDF や JPEG ファイルに変換して、各レッスンにわけてストックしておきました。この画像の部分をトリミングしてワークシートや定期テスト、そしてパワーポイントに貼り付けて活用しています。また、NEW CROWN の

CD-ROMにも画像がたくさん保存されていますのでこちらでも使えます。

⑤音声の取り込み

NEW CROWNのCDをPCに取り込み、それをタブレットPCに入れて使っています。そうすることにより、画像を映すと同時に音声を流すこともできます。操作に慣れれば画面や音声の切り換えがスムーズに行え、CDプレーヤーを使わずに済みます。

⑥その他のデジタルデータ

NEW CROWNのCD-ROMにはその他、各LESSONのワークシートや本文のテキストデータが入っているのをご存じでしょうか。私はこれらをPCのハードディスクにコピーし、ワークシートや定期テストを作成するときに活用しています。特に英文と日本語訳を活用しています。教科書の文を手打ちするより遥かに効率的ですので、お試しください。

さて、具体的な指導方法に戻ります。

3. USE Readの指導について

①指導のスタンス

比較的に長い文章の指導はむずかしいですね。始めから一字一句読んで、意味を生徒に聞いて、重要事項を板書し、生徒がノートに写し…。という活動は退屈そのものです。私は、理解の順番はこの際関係なく、いろんな角度から内容を理解し、つぎはぎだらけでも最終的には全体を理解する、といった方法をとっています。具体的に説明しましょう。

②ラフなリスニング

LESSON 5のUSE Readで説明しましょう。始めにイラストや写真を見ながら、「この女の子は何を持っている?」「久美は何になりたいんだろうね?」「この中に入っている円い物は何?」「玉屋～! 鍵屋～! ってかけ声知ってる?」などと本文に関連する事項を投げかけ、予備知識を植え付けます。

文を漫然と聞くのと、疑問を持ったり、あることを意識して聞くのとでは、理解度において大きな差があります。p.58にはその材料がたくさんありますね。最初の「久美のスピーチの原稿を…」やIn-Readingの質問などがそれです。本文を聞かせる

前に、各ページ1・2個の質問をします。p.58では「花火師は英語で何て言うの?」「久美はなぜ花火師になりたいの?」などを、p.59では「久美は去年どこへ行って何を見た?」「久美は花火のことを何て表現している?」などと質問します。そして、全文を聞いたあとに質問の答えを確認します。もし、生徒が答えられなくても、「それじゃあとでまた確認しよう」と言って次に進みます。

今度はp.58のリスニングをします。この時も簡単な質問をしてからです。「今年の夏に久美はどこへ行った?」「数日後誰と話した?」などと質問して、p.58だけをもう一度聞きます。答えを確認した時点で、本文の内容理解がまた進みました。

次にp.58に関する問題を扱ったワークシートやワークブックを班で協力して解きます。班員で答えを確認した時点で、更に理解が増していると思います。最後に全員でp.58を音読します。この時も「この言葉はどんな意味かな?と考えるながら読みましょう」と内容を意識しながらの読みをします。

次の授業で帯活動を済ませたあとも、①質問を投げかけての全文リスニング。②質問を投げかけてp.59のリスニング。③p.59の問題演習。④音読。の繰り返しです。この方法はLet's Readでも使っています。

4. We're Talkingの指導について

このページに関しては特別な指導はしていません。なぜなら、第1時からくり返し読みの練習をしており、生徒はこのページの読み方や意味を十分理解しているからです。だから重要表現の発音や意味を確認し、Exerciseを使って練習したり、パワーポイントを使っての読み練習などをします。残りの時間はLESSON 5のまとめや、次時の予告を、そしてLESSON 6のピンゴシートやQ&Aを配布する、などして終了します。

5. 協同学習について

私の授業の基本となるものは協同学習です。ペア学習やグループ学習において、良好な関係にある生徒同士の学習力は、教師一人の力を遥かに上まわります。当然生徒には能力差があります。中には日々

の授業をととても簡単だと思う生徒もいれば、とても難しいと感じる生徒もいるでしょう。机をみな一様に正面に向けた状態で授業を進めると、理解の遅い生徒は完全に孤立し、1時間中学習が成立していない状態になります。また、教師が全員の質問に答えたり、全員の学習状況を把握することは難しいです。

そこで、ある程度生徒の自主性に任せ、生徒がお互いに助け合うことにより、生徒全員の学習を成立させるよい方法になります。また、この活動を続けることにより、生徒間の関係もますます親密になり、生徒間のトラブルが次第に減っていきます。まだ導入されていない先生方は、是非試してみてください。

以上が私の授業実践です。少しでも皆さんのお役に立てることがありましたら幸いです。